

1 学校教育目標	
教育目標	I 豊かな人間性や社会性を育成し、多様な社会を主体的に生き抜く資質や能力を養う II 基礎力や汎用力を育み、知的好奇心をもって生涯にわたり学び続ける意欲を高める III 自らの心と身体を大切に、健康や安全を意識して活力ある生活を送る基礎を培う
育てたい生徒像	I 豊かな人間性や社会性を備え、自らの意志で未来を拓こうとする高い志をもつ生徒 II 学ぶ喜びを知り、基礎・基本の上に幅広い応用力を培い、自ら伸びようとする生徒 III 勉学や部活動を通して心身ともに成長し、他を思いやり、社会に貢献できる生徒
めざす学校像	I 人間力と自己有用感を向上させ、ともに夢を語り合える学校 II 知的好奇心を大切に、主体的な行動力と汎用力を育む学校 III 活力と規律ある教育活動を展開し、地域から信頼される学校
今年度の重点目標 ○「知」「徳」「体」の調和を図り、主体性を伸ばす教育活動の展開	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
【学習指導】	生徒の学習時間確保や基礎学力向上のために様々な取組を行っている。特に、生徒の主体的な学習習慣については、生徒により差が大きく、さらなる努力が必要である。3年間を見通した学習指導体制の在り方や教育課程編成について、学校全体で検討し、組織的に取り組む必要がある。
【生徒指導】	生徒による自治意識の醸成をめざし、生徒会、各種委員会活動の活性化を図ってきた。生徒の主体性も着実なものとなりつつある。また、地域貢献の意識が芽生え始め、さらなる視野の拡大や人間性の向上が期待される。スマホについては使い方、使用時間についてなお課題がある。
【進路指導】	進路の年間計画に従って、模試・課外・「総合的な学習の時間」の内容を企画・実施した。課外については、昨年同様に生徒の参加を促し高い出席率を維持し、学力の定着をはかりたい。模試も結果の分析をおこない、生徒の学力や志望動向等を把握し、生徒の進路実現を目指していく必要がある。また、今年度入学生から実施される新しい入試制度に向けて「総合的な学習の時間」の内容を充実させる必要がある。
【学校運営】	教育目標達成のため、様々な方策を継続して行い、その成果を地域に向けて積極的に発信する。また、効率的に業務を遂行するための改善を組織的に行う必要がある。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題	
【学習指導】	朝学や課題、課題考査など、平素からの様々な取組により家庭での学習時間の増加を図り、生徒の学習習慣の定着をサポートする。特に中学校から1年次への学習がスムーズに移行できるよう重点的に取り組む。また、成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と協議し、補習・課題の在り方について指導計画を検討する。生徒の主体的な学習意欲の喚起が課題である。
【生徒指導】	生徒会、各種委員会の活動の更なる活性化を図り、他者との協働を通して、自治意識を育成する。また、地域とのつながりを重視し、様々な活動を通して、広い視野を持ち社会貢献できる人間育成を目指す。教育相談体制の一層の充実を図り、いじめや生徒が抱える諸問題に早期に対応する。スマホ使用時間のコントロールやマナーの向上を図る。
【進路指導】	模試や課外を一層充実させ、希望進路実現のための学力を定着させる。また、新しい入試制度に向けて、英語の外部試験に対応するための対策を講じる。キャリア教育についても「総合的な学習の時間」を通して計画的に実施し、生徒の実態に即して内容の改善を検討する。
【学校運営】	地域に向けての情報発信を積極的に進めるため、さらなるHPの充実、各種通信の発行、マスメディアへの情報提供を行い、学校運営協議会への礎を作る。また、職員の時間外業務削減のため、業務の効率化に努める。
<チャレンジ目標> ○ 学びの自立(家庭学習の充実) ○ 生活の自律(ケータイ・スマホにとらわれない生活)	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	生徒の基礎学力の定着	・成績不振の傾向にある生徒を早期に把握し、教科・学年と連携して指導、支援する。 ・補習等については各教科が実施できるよう体制を整える。	4 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5%以内であった。 3 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5~10%であった。 2 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の10~15%であった。 1 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の15%以上であった。	4	3年生については、全員卒業予定である。1・2年生についても、教頭、教務主任、学年主任、担任が連携を密にし、1学期より複数回三者懇談を実施した。成績不振者に対する早めの対応を行い、効果が上がっている。学年末考査に向け、全員進級できるよう指導中である。教科担当だけでなく、全教員が成績不振者の情報を共有し共通理解の上指導を行った。 また、通知票を通して、保護者に対する情報提供を進め、協力して学力向上を図った。	教務部、教科、学年が連携し、成績不振者に対し、保護者も含め早めに注意喚起を行うなど、十分な支援を行っている点が評価できる。 学習指導において、教員主導で指導するだけでなく、生徒が主体的に学習に向かえるようなきっかけを与えてほしい。 公開授業で授業参観をした際に、教員が授業の方法について工夫を凝らし、生徒の集中力を途切れさせないようにする姿が見られ、学力向上効果があると感じられた。また、授業アンケートによる生徒の評価を参考に、授業改善により一層取り組んでほしい。	A
	教職員の指導力の向上	・生徒による授業評価を実施し、授業の工夫や改善を行う。 ・公開授業による研修、教員間の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	4 年間2回以上実施し、授業の工夫改善に効果があった。 3 年間1回実施し、授業の工夫改善に一定の効果があった。 2 一部に実施できない教科、教員があり、あまり効果がなかった。 1 一部に実施できない教科、教員があり、効果がなかった。	4	今年度も生徒対象に授業アンケートを年2回実施し、生徒による授業評価を行った。各教科でその結果を分析して情報を共有し、授業の工夫・改善につなげている。		
進路指導	学力の向上や進路目標実現のため、課外の効果的な活用を図る。	・発展的学習内容を定着させるため、課外の効果的活用を図る。	4 学期中の課外の出席率が75%以上であった。 3 学期中の課外の出席率が65%以上であった。 2 学期中の課外の出席率が55%以上であった。 1 学期中の課外の出席率が45%以下であった。	4	1学期の課外の出席率は、2学年で91%、3学年で88%であった。1学年については、1学期には課外を実施していない。2学期の課外の出席率は、1学年で98%、2学年で92%、3学年で93%と概ね良好である。	進路講演会など、保護者の参加者数を増やすための工夫をしてほしい。夏季休業中の保護者対象の講演会は参加者も多く効果を上げている。 生徒一人ひとりの進路実現のため、より一層学年と連携し、早めに受験のための学習に向かわせる体制づくりに尽力してほしい。 来年度から、コミュニティ・スクールの導入となるため、今まで以上に山口東京理科大と連携し、生徒の進路意識の醸成を図ってほしい。	A
	進路に関する情報を保護者に提供する取組の強化により、生徒の望む進路の実現の一助とする。	・保護者が参加出来る進路講演会等の行事の充実を図る。	4 保護者が参加できる進路講演会等を5回実施した。 3 保護者が参加できる進路講演会等を4回実施した。 2 保護者が参加できる進路講演会等を3回実施した。 1 保護者が参加できる進路講演会等を2回以下しか実施しなかった。	3	各学年対象の進路講演会、山口大学医学部保健学科・九州工業大学説明会を実施した。また、夏季休業中にはPTA進路部会と協力して保護者対象の進路講演会を実施し盛況であった。参加者の感想、アンケート結果も良好で満足度も高い。		
	進学校としてのキャリア教育を充実していく。	・「総合的な学習の時間」の活用により、自己にふさわしい在り方生き方や進路について考察する学習活動を展開する。	4 各学年ともほぼ計画通り実施した。 3 各学年とも80%程度計画通り実施した。 2 各学年とも60%程度計画通り実施した。 1 各学年とも40%程度しか計画通り実施できなかった。	4	1年生は学習ガイダンスの講話、文理コース説明会、進路講演会や大学訪問を実施した。また、2年生は出前講義、進路講演会を、3年生は進路講演会、小論文講座を予定通り実施し、生徒の進路意識を高めるよう努めた。		

生徒指導	生徒の主体性を尊重し、他者と共働し、自ら考え行動する姿勢を育む。	・「生徒会」や「各種委員会」を中心に、学校生活での課題を見つけ、その解決を図ることにより、自治意識を高める。	4 「意識向上につながった」と思う生徒が70%以上であった。 3 「意識向上につながった」と思う生徒が60%以上であった。 2 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以上であった。 1 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以下であった。	4	生徒会、学級委員会、交通委員会などの各種委員会が年間を通して、積極的に活動した。昨年に引き続き、警察とともに「少年リーダーズ活動」も行った。また、これまで校内に限定していたあいさつ運動を校外でも実施するなど、より一層地域とのつながりを深めた。外に目を向けることにより、委員会活動がますます活性化し、生徒の主体的な活動へとつながっている。	生徒主体の「あいさつ運動」などの実践もあり、地域の人に対して、生徒は非常によくあいさつをしている。生徒会の、地域貢献の取組もさらに充実させてほしい。 教育相談に関して、いち早く生徒の情報をつかみ、管理職や他の部署とケース会議を開くなどして共通理解を図り、早期対応している点が非常に評価できる。いじめについても、日頃から生徒を十分に観察し、早期対応を心がけてほしい。	A
	いじめ防止にかかわる教育相談体制の充実	・生徒が抱える問題を早期に発見するために、アンケートや情報交換会等を実施し、指導に活用する。	4 各学年6回以上のアンケートの実施と年4回以上の情報交換会を実施し、指導に活用した。 3 各学年6回以上のアンケートの実施と年3回以上の情報交換会を実施し、指導に活用した。 2 各学年6回以上のアンケートの実施と年2回以下の情報交換会を実施し、指導に活用した。 1 各学年とも6回以上のアンケートの実施に対して情報交換会が年1回以下に留まり、指導への十分な活用ができなかった。	4	様々な不安や悩みを抱える生徒に対し、速やかにかつ細やかに対応した。学年での情報共有と運動した対応、保健室・教育相談室との連携、管理職への報告・連絡・相談が十分に図られた。SCの助言を参考に、共通理解が得られた方針の下で、指導・支援を行うことができた。いじめについてもアンケート内容を改善し、早期にいじりやからかい等も発見できるよう努めた。		
図書視聴覚	学校図書館の環境を整備し、図書の貸出率を上げる。	・1、2年生は、年間10冊本を読み、読書ノートを作成し、人間性を磨いていく。 ・学校図書館の環境を整備し、図書の貸出率を上げる。	4 80%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 3 60%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 2 40%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 4 学校図書館の環境を十分に整備し、図書の貸出率が昨年度に比べ向上した。 3 学校図書館の環境整備が80%でき、図書の貸出率が昨年度に比べ向上した。 2 学校図書館の環境整備が60%でき、図書の貸出率が昨年度並みであった。 1 学校図書館の環境整備が不十分であり、図書の貸出率が昨年度より下回った。	4	ほぼ全員の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 山口県読書ノートコンクールにおいて、優秀賞1名、優良賞5名、入選4名、優良学校賞を受賞した。 2学期に、蔵書整理を実施し、破損本を廃棄手続させた。図書の貸出総数は、昨年の911冊を上回り、1081冊(1月16日現在)であった。また、山陽小野田市立中央図書館と連携し、定期的に「小野田高校生おすすめ本コーナー」を中央図書館に設置するとともに、本校正面玄関に「中央図書館司書おすすめ本コーナー」を新設した。	山陽小野田市立中央図書館との連携を積極的に図ることで、地域に対し本校を知ってもらう機会とすることができた。また、玄関前に「おすすめ本コーナー」を設置することで、生徒はもちろん、来客の目も引き、本校の読書支援教育についてアピールすることができている。図書委員会など、生徒の主体的な取組をより一層推進してほしい。	A
	生徒の「健康自立」「生活習慣病予防」に向けた活動の推進	・健診後の特にう歯治療率、眼科再診率共に95%以上を目標とする。生徒保健委員会および保健体育科教諭による啓発活動、勧告等を通し目標達成を目指す。	4 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に95%以上であった。 3 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に90%以上であった。 2 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に85%以上であった。 1 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に80%未満であった。	4	昨年度よりも早い時期に治療率が97%に到達し、目標達成できた(残りの3%も治療継続中)。これは生徒保健委員会の協力もさることながら、一人ひとりの生徒の意識も高まりつつあることの結果であると拝察される。	生徒に対し、治療勧告を頻繁に行うことで、治療率、再診率を飛躍的に向上させ、生徒や保護者の健康意識の醸成につなげることができた。また、今年度は特に保健委員会活動の充実が図られ、熱中症対策、歯の健康、目の健康など、生徒の主体的な活動が顕著であった。美化活動についても生徒の意識向上に一層努めてほしい。	A
保健体育	清潔で衛生的な学校環境美化の推進強化を図る。	・「清掃徹底の習慣」を身に付けさせる。清掃場所への迅速な移動、時間一杯の掃除を徹底させる。 ・整美委員会・保健委員会により、毎月、清掃・衛生状況の「点検評価」を行い生徒・教員にフィードバックすることで推進強化を図る。達成度は2委員会にアンケートで実施。	4 「推進活動を毎月必ず行い、美化に努めた結果、環境美化の推進ができたと思う」が、80%以上であった。 3 「推進活動を毎月必ず行い、美化に努めた結果、環境美化の推進ができたと思う」が、70%~80%であった。 2 「推進活動を毎月必ず行い、美化に努めた結果、環境美化の推進ができたと思う」が、60%~70%以上であった。 1 「推進活動を毎月必ず行い、美化に努めた結果、環境美化の推進ができたと思う」が、60%未満であった。	3	清掃場所への迅速な移動や、掃除時間の終了時まで熱心に行うことなど、そのための具体策として、放送による「校歌」を活用した取組を1・3学期で行った。トイレの美化は、定例衛生活動に加え、花・輪運動も展開した。アンケートでは新しい試みや、両委員会の推進活動については、共に80%以上という良好な回答であったが、その結果については「掃除の取りかかりが2学期以降遅くなってきた」「環境は現状維持の感もある」などの意見もあり、委員会の活動がなかなか結果につながらない面が課題となった。		
	基礎学力と学習習慣を確立することで進路実現可能な学力を養成する。	・年間を通じて家庭学習時間記録票を記入させ、適宜指導するとともに「学年だより」などで意欲の喚起に努める。 ・年間を通じて朝学を実施し、基礎学力の定着を図る。 ・入学早期に、学習ガイダンスを実施し、大学入試制度の説明や、国・数・英の教科別ガイダンスを行う。 ・1学期定期考査前の放課後に自学自習の時間(学びの時間)を設定する。 ・以上のことを模試を通じて評価する。	4 生徒の40%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 3 生徒の30%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 2 生徒の20%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 1 生徒の15%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 4 7月・10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が49人以上である。 3 7月・10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が42人以上である。 2 7月・10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が35人以上である。 1 7月・10月・1月のすべての模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が35人未満である。	4	入学当初より、学習記録をつけさせて、振り返り活動を充実させた。その結果をもとに、クラス面談を行ったり、学年通信等で状況を発信したりすることで、生徒の家庭学習に対する意識が向上したと思われる。 4 家庭学習時間の確保が結果に結びついている。今後は予習・授業・復習のサイクルと家庭学習の重要性を一層喚起しながら、基礎的・基本的な内容を確実に定着させていきたい。	再来年度からの、大学入試改革の仕組みに対応したポートフォリオなど、非常に先進的な取組を行っている。また、学習記録等、生徒自身の振り返りを大切に、やる気を引き出す方策を伝えることで効果を上げている。学年通信を頻繁に発行することで、生徒の学習に対する意識付けを行うこともできている。	A
二学年	進路実現に向けた学力の定着と伸長を図る。	・朝学小テストや週末課題を計画的に実施し、学力の定着を図る。 ・進学課外受講率を向上させ、学年として早期に受験体制を整えさせる。 ・2学期後半から「志望理由書」の作成に取り組みせ、早期に進路目標の設定を図る。	4 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が75%以上いた。 3 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が65%以上いた。 2 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が55%以上いた。 1 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が45%以上いた。 4 10月・1月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が56人以上である。 3 10月・1月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が48人以上である。 2 10月・1月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が40人以上である。 1 10月・1月・2月のすべての模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が40人未満である。	4	夏季休業中課外においては、受講率は97.5%と高く、高い意識を持って講座に取り組んでいる様子が見られた。また、学期中の放課後課外は部活動との両立もあり、受講率は9割程度となったが、いずれの講座も高い出席率を維持している。 3 10月模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒は53人であった。2月模試では、さらにこの数字を上げていけるように指導していきたい。	生徒の学習習慣の確立、学習内容の基礎・基本の定着、学習意欲の喚起を促すことができた。生徒一人ひとりの進路実現に向け、学年としての取組を一層工夫し、学年の教員が一丸となり、尽力してほしい。	A
	受験体制の確立	・進学課外の内容を受講者の実情に合わせて十分に検討し、学習効果の上がる講座を提供することに努める。 ・年間を通し、受講率を高水準で維持し、学年全体の進路実現意識を高める。	4 進学課外受講率が、80%以上であった。 3 進学課外受講率が、75%以上であった。 2 進学課外受講率が、70%以上であった。 1 進学課外受講率が、70%未満であった。	4	進学課外受講率は90%以上の高水準が維持できた。出席率も非常に良好であり、課外授業に加え、個人指導希望者も多岐みられた。	大学入試直前について、生徒によく努力させ、最後まで諦めないように指導されていた点が評価できる。より早期の取組を充実させることにより、一層の成果が出るように努力してほしい。	A
三学年	受験に向けた学力の伸長	・進路指導部と綿密に連携を取りながら、模試分析や生徒との面談、また、階層別指導を積極的に取り入れる。 ・4年生大学、短期大学、専門学校、公務員など多様な進路に対応する面接指導や小論文指導を行う。	4 国公立大学合格者が、35名以上であった。 3 国公立大学合格者が、30名以上35名未満であった。 2 国公立大学合格者が、20名以上30名未満であった。 1 国公立大学合格者が、20名未満であった。	3	1月末現在、推薦試験において国公立大学14名が合格している。 2月下旬に国公立大学前期試験、3月10日後に国公立大学中期・後期試験を控えている。		
	地域への情報発信を積極的に行う。	学校ホームページの更新を学校行事だけでなく、様々な取り組みについて積極的に行う。また、学校通信の発行や、マスメディアへの情報提供も積極的に行う。	4 学校ホームページの更新が年間80件以上であった。 3 学校ホームページの更新が年間60件以上であった。 2 学校ホームページの更新が年間40件以上であった。 1 学校ホームページの更新が年間40件未満であった。	4	1月末までで、学校ホームページの学校行事に関する更新が120件を超え、また、本校に関連する新聞記事が50本を超えた。学校通信の発行も積極的に行い、さらなる地域への情報発信に努めたい。また、HPをより多くの人に閲覧してもらうための方策や、ITだけに頼らない紙ベースの情報発信も工夫していきたい。	HPやマスメディアによる情報発信について、昨年度と比較し、質量ともに非常に充実していた。時間外業務が多い教員をフォローするシステムを検討してほしい。「健康な教員が健康な生徒をつくる」ので、この取組にはさらなる尽力を期待する。	B
校務運営	組織的な業務の効率化を図る。	業務内容を見直し、改善し、職員間の連携を積極的に行うことにより、効率化を図る。	4 時間外業務時間の削減が15%以上であった。 3 時間外業務時間の削減が10%以上であった。 2 時間外業務時間の削減が5%以上であった。 1 時間外業務時間の削減が5%未満であった。	3	最終退校時刻の設定、ノー残業デーの設定や部活動の練習終了時間を設けたり、留守番電話対応などを行ったりした。それにより教員の「働き方改革」の意識は高まった。さらに徹底できる方策を考える必要がある。		

<p>5 学校評価総括(取組の成果と課題)</p> <p>(学習指導)授業アンケート、公開授業等を通して授業改善の取組を進めることができた。欠点保有者に対しては、教科担当・担任だけでなく、全教員が情報を共有し、組織的に取り組むことができた。二学期末現在、欠点保有者数が各クラスにいるが一学期末より明らかに改善しており、自覚を持って取り組ませている。</p> <p>(進路指導)進学課外出席率は2学期には平均94%まで上昇させることができた。「総合的な学習の時間」を活用した計画的なカリキュラム教育の取組は、生徒の進路意識向上に一定の成果をあげているものと考えられる。また、本年度もPTA進路部会と協議し、保護者のニーズを踏まえた保護者研修会を夏休みに実施した。講演後の感想も非常に好評であり、これからも継続して取り組みたい。今後は生徒の学力をいかにして向上させ、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるかが課題である。</p> <p>(生徒指導)生徒会、各種委員会など、生徒による主体的な活動の一層の定着が図られた。生徒会を中心として、学校生活における様々な課題について考察を深め、改善を進めることができた。また、地域との交流を積極的に行った。</p> <p>(教育相談)配慮が必要な生徒への早期対応を図るため、関係教員によるケース会議を開催し、情報共有や適切な対応に努めた。また、スクールカウンセラーと緊密に連携することで、専門的なアドバイスを含めた支援に取り組むことができた。特別支援の通級等への取組が課題である。</p> <p>(健康管理)健診後の再検査率、治療率(現在治療継続者を含めて)は100%に至った。熱中症対応、インフルエンザ対応など季節ごとの管理も適切におこなった。保健委員会は、虫菌予防や、目の愛護の為にスマホ時短の取組等、生徒に身近な健康テーマを取り上げ年間を通じて取り組んだ。PTA保健部委員保護者も健康通信で多大なご協力をいただいた。こうした三者が連携した取組により、十分な管理や対応が達成できた。</p> <p>(環境整美・安全点検)特に校内美化において掃除の取組方の一新を図る企画も行った。また、保健委員会もトイレの花一輪運動など美化につながる取組も行った。委員会生徒のアンケートの中にもあったが、取組強化期間は成果もあったが、それが習慣づいたかという点、疑問が残った意見が多かった。環境美化に対する1人ひとりの「自覚」を覚醒定着させることが課題として残った。</p> <p>(図書)LHRを活用して毎学期全校読書会を実施した。山陽小野田市立中央図書館との連携など地域と関わりながら、積極的な図書館活動を実施することができた。</p> <p>(学校運営)学校のHPの更新は、学校行事等、ニュースがあるたびに迅速かつ頻繁に更新することができた。また、マスメディアにも積極的にPRし、多くの取材を受け、テレビや新聞に取り上げられることでさらに地域への広報活動ができた。また、業務改善については、教員の業務時間の縮減を目指し、年度当初に具体的な業務削減案を立案し、年間を通じてその実施に取り組んだ。</p>

<p>6 次年度への改善策</p> <p>(学習指導)組織として取り組む体制を整える。3年間を見通した学習指導のあり方、教育課程等を学校全体で協議していく。成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と協議し、補習・課題のあり方について指導計画を検討する。小野田高校の特色を大切に、学習指導と部活動・学校行事等のバランスをしっかりと取っていく必要がある。特に1年次の学習指導、生活指導に重点的に取り組む必要がある。小野田高校を中学生や保護者にどうアピールするかは重要な課題であり、公開授業だけでなく、学校見学会・学校説明会等においても、学習指導の充実・改善に取り組んでいる姿勢を紹介していく。</p> <p>(進路指導)2021年度実施の「大学入試共通テスト」に向けて具体的な検討と改善が必要である。課外については、受講率、出席率を高めるだけでなく思考力・判断力・表現力をつける取組、3年間を見通した「総合的な探究の時間」の検討等、教員間で情報を共有し組織的に進める必要がある。また、保護者が参加できる進路講演会等の行事の一層の充実に努め、進路に関する情報を提供していきたい。</p> <p>(生徒指導)今後も生徒が主体となって考え、活動していく取組の充実により、生徒の一層の人間性の成長を促したい。さらに、よりいっそう他者を思いやり、地域に目を向け、貢献できるよう努めたい。</p> <p>(教育相談)生徒に関する課題について、担任等が一人で抱え込むことなく、迅速に情報を共有し組織的に対応できるよう、今後とも早期のケース会議開催、SCとの連携に努めたい。</p> <p>(健康管理)健康管理は、十分に機能していると感じる。来年度も学校・生徒・PTA三者の連携を保ちながら、様々な取組を推進し、今の良好な状況を維持していきたい。</p> <p>(環境整美・安全点検)上記総括にもあるように、どのような取組を施しても、1人ひとりの「やる気」を育てなければ真の環境美化は達成できない。学校全体での「やる気」をどう発現させ維持させていくかをまず考え、改善策を講じたい。</p> <p>(図書)生徒が積極的に図書館を利用するようなしなかけを工夫したい。</p> <p>(学校運営)来年度におけるコミュニティ・スクール導入に向けて、地域とのさらなる連携を念頭に置き、学校情報を更に発信することはもちろんであるが、ますます地域から愛され、信頼を得られるような取組を考え、地域とともにある学校づくりに励みたい。また、業務改善については、長時間労働の主因は部活動である。効率的な部活動運営の取組を考え実践することで、業務時間の縮減につなげていきたい。</p>
